

中協・部署紹介

地域連携室

皆さんこんにちは。今回は地域連携室に配属されている医療ソーシャルワーカーの役割について紹介させていただきます。

医療ソーシャルワーカーの役割のひとつに近隣の病院やクリニック等との連携があります。近隣の病院から紹介された患者様の受け入れの調整や、逆に当院から近隣の病院へ転院する際の調整を行います。また、入院中の患者様が自宅へ退院する為の退院支援を行う事も医療ソーシャルワーカーの役割です。具体的には、担当のリハビリスタッフとともに患者様のご自宅を訪問させて頂き、患者様の動きや住宅環境を確認して、退院後も自宅で安心して過ごせる様介護サービスに繋げたり、ケアマネージャー等の他職種と調整していく事も役割のひとつとして挙げられます。

その他に、外来患者様、入院患者様、ご家族からの相談を受け、援助していく事があります。患者様やご家族それぞれの話に耳を傾け、何が課題になっているのか、どうすればその課題を改善出来るかを一緒に考えて調整していきます。個々が持っている力を生かしたり、福祉サービス等といった社会資源に繋げたりと、援助の方法は様々です。

その社会資源のひとつとして、中部協同病院を含めた医療生活協同組合の二つの病院・四つの診療所では、一年前の平成二十二年十月十五日から「無料・低額診療事業」を開始しました。



(地域連携室 一回)

この無料・低額診療事業は、「低収入で生活に困っている時に病気になる、経済的理由で必要な医療を受ける事が出来ない」という時に、社会福祉法に基づいて一定期間、医療費の自己負担(窓口で支払う医療)について無料又は低額な料金で医療を受けられる様にする制度です。この無料・低額診療事業についても、医療ソーシャルワーカーに相談する事でご利用が可能になります。

医療費や退院後の事など、患者様やご家族には様々な不安、心配があると思います。その際はぜひ私たち医療ソーシャルワーカーがご相談を承りますので、お気軽に声をかけてください。宜しくお願います。

九州・沖縄地区討論会 「いのちの権利章典」

去る9月27日に福岡県で開催された、九州沖縄地区の討論会へ総勢11名で参加してきました。まず始めに、「いのちの章典を学ぶ」というテーマの学習講演があり、次に「医療福祉生協の理念(案)」が発表されました。医療福祉生協の理念(案)は「わたしたちは、健康をつくる。平和をつくる。いのち輝く社会をつくる生協です。」というもので、いのちの章典に比べてわかりやすく、グループごとの討論会でもかなり好評でした。

一方で「いのちの章典」(案)では、「以前の権利章典の方が具体的でわかりやすい」という意見が目立ち、「自己情報コントロール権は、医療機関にコントロールされているみたいで怖い」という意見もありました。また、職員以外の理事の方からは、「職員が患者の権利章典に追いついていないのに、いのちの章典にしているのか」という厳しい指摘もありました。

2013年通常総会に向けて、「患者の権利章典」のような時代を先取りした章典をめざし、「いのちの章典」も多くの議論を重ねて素晴らしいものになるよう、みんなで作り上げていきましょう。

(医事課長 平良雄一郎)

全国民医連・駅伝大会の感想

今回初めて全国民医連の駅伝に参加させて頂きました。沖縄県からは七名が参加し、全員でタスキを繋ぎました。最終結果は三十五チームのうち十六位となり、結果だけをみると合計チームの半分程の順位でしたが、駅伝の中のタスキを繋ぐという行為にとっても感動しました。全力を出しきった仲間からタスキを受けついで、自分自身が責任をもって次に繋げる。単純なことですが、一人一人が一丸となりゴールまで走りきることがこんなな素晴らしいものだとは思っていませんでした。とても良い経験をする事が出来ました。

またこの様な機会があるならば、次回は大会に向けて個々の能力を上げ、チーム一丸となり上位を狙って頑張りたいと思います。

(リハビリ室 岸谷英明)



特定健診のご案内

特定健診はもう受けましたか？

特定健診は40歳以上の方を対象とした、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目した健診です。

日本人の死因の約6割は、高血圧・糖尿病・心臓病などの生活習慣病が占めていて、生活習慣病はメタボリックシンドロームがあると高い確率で発生します。特定健診は、今の自分の健康状態がどうなっているかを知り、生活習慣病の早期発見と、悪化する前に予防するのに役立ちます。病気を未然に防ぐことができれば医療費もかからず、健康で長生きできます。

また、当院では特定健診以外のコースも受けることができます。特定健診は40歳以上の方に受けなければならない義務がありますが、受診券を利用して役所が補助する人間ドックや脳ドックを受けても特定健診を受けたとみなされるので、特定健診だけでは物足りない方は、人間ドックなどを検討されてもいいかも知れません。

さらに、医療生協の組合員である皆様は、組合員健診（健康づくり健診）も受けることができ、これも受診券が利用できます。

この機会に、ぜひ中部協同病院健診室で人間ドックや組合員健診をご利用ください！

現在、乳がん・子宮がん検診も実施しています。

◆乳がん検診

11/26（水）午後1時～（空きがあります）
11/28（水）午後1時～（定員に達しました）

◆子宮がん検診

11/13（火）午前9時30分～午後4時
11/27（火）午前9時30分～午後4時
※子宮がん検診は毎月第2・第4火曜日に実施。

ご希望の方は、ぜひ中部協同病院健診室までご連絡を！

中部協同病院 健診室
938-6160（直通）
受付9時～16時半



投書

お礼の言葉

リハビリ室 岸谷英明先生へ

いつもさわやかな笑顔と親切かつファイトあふれる元気なお声が父親のはげみになり、微量ながらも少しずつ頑張りを取りもどしつつあり、リハビリ室から岸谷英明先生がお迎えにくるのを楽しみに待っています。

しゃべれない父親ですが、声のトーンや、やさしい表情でうまくリードしてくれ、排泄の手助けもいつも引き受けてくれ、いつも感謝しています。岸谷さんに出会えて、父親も私達も幸せです！

これからも体に気を付け、皆様の支えになってあげてくださいね！いつもありがとう！

リハビリ室の他のスタッフの皆さんもいつも笑顔で接してはげましてくれてありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

40代・女性（投書を頂いた方のお名前は、個人情報保護に係るため、掲載を控えさせていただきます。）



第十一回全日本民医連共同組織活動交流集会が「いま、いのち輝く新しい福祉の国づくり」雨ニモマケズ、風ニモマケズ、震災ニモマケナイ、原発ノナイ、誰もが安心して住み続けられるまちづくりをテーマに、九月二日～三日岩手県花巻市で開催され、全国か千八百五十名の共同組織（医療生協など）・職員が参加し、沖縄からは十一名が参加しました。

地元岩手県による氷上太鼓での歓迎に始まり、三上満さんが「震災に生きる宮沢賢二の世界観」と題し、笑いの交えながらの記念講演。水俣不知火患者からの訴え、シンポジウム「東日本大震災く住民本位の復旧復興」と続きました。

二日目は十分科会に分かれ、沖縄からも医療生協理事の平良宗潤さんが「八

重山教科書採択問題」、介護福祉部の城間介護部長が「介護・自治体懇談会の取り組み」、玉城組織部長が「事業所における組合員・出資金の取り組み」ISO・MBOを組み合わせ運営した職場づくり」をそれぞれの分科会で発表しました。

震災の影響で1年間延期されていた今回の集会は「東日本の復旧復興へのメッセージ」にあふれ、全国の「民医連の絆」を感じる事ができました。

今後社会的・経済的に弱い立場にある人たちに寄り添いながら、さまざまな活動に生かしていきたいと、元気をもらいました。

（地域連携室 当真嗣正）

第十一回全日本民医連共同組織活動交流集会

うるま具志川南支部 活動報告

私達うるま具志川南支部は、今年3月に具志川支部を分割してできた新しい支部です。4月から新支部の活動をはじめて今月で6ヶ月となりました。まだ短い期間ではありますがこの間の活動を紹介します。

まず4月に班を一つ結成し、現在三つの班が定期的に班活動を行っています。7月の健康講演会には具志川地域でバスを貸し切り参加しました。8月には地域の老人会との共催で介護保険サービスの学習講演会にとりくみました。また、健康ウォーク班では、毎月1回の健康ウォークを行っており、毎月30名前後の参加者がおります。この中で、具志川南支部の活発な班活動、支部活動が行われる原動力となっているものは、毎月1回の健康ウォークです。支部分割の際、運営委員の担い手がおらず不安の中の支部分割ではありましたが、運営委員にならなくても協力してくれる、たくさんの健康ウォークの仲間を頼りに支部分割を決行しました。健康ウォークの仲間で地域に班をつくり、そのつながりで老人会との学習会も行うことができ、仲間の皆さんには深く感謝すると同時にこれからも頼りにしていきたいと思ひます。

（うるま具志川南支部支部長 大嶺自草）